



## 研究データ利活用協議会 サイエンスアゴラ内 公開シンポジウムのご案内

# 研究データの利活用の未来 －オープンサイエンスの実現手段－

本年6月に設立された「研究データ利活用協議会」の紹介や、洪水予想やダム操作などの身近なデータ活用事例を題材に、研究データの利活用の未来を、来場者の皆さまと共に創りあげます。

**日時：** 2016年11月4日(金) 13:30～15:00 (受付開始 13:00～)

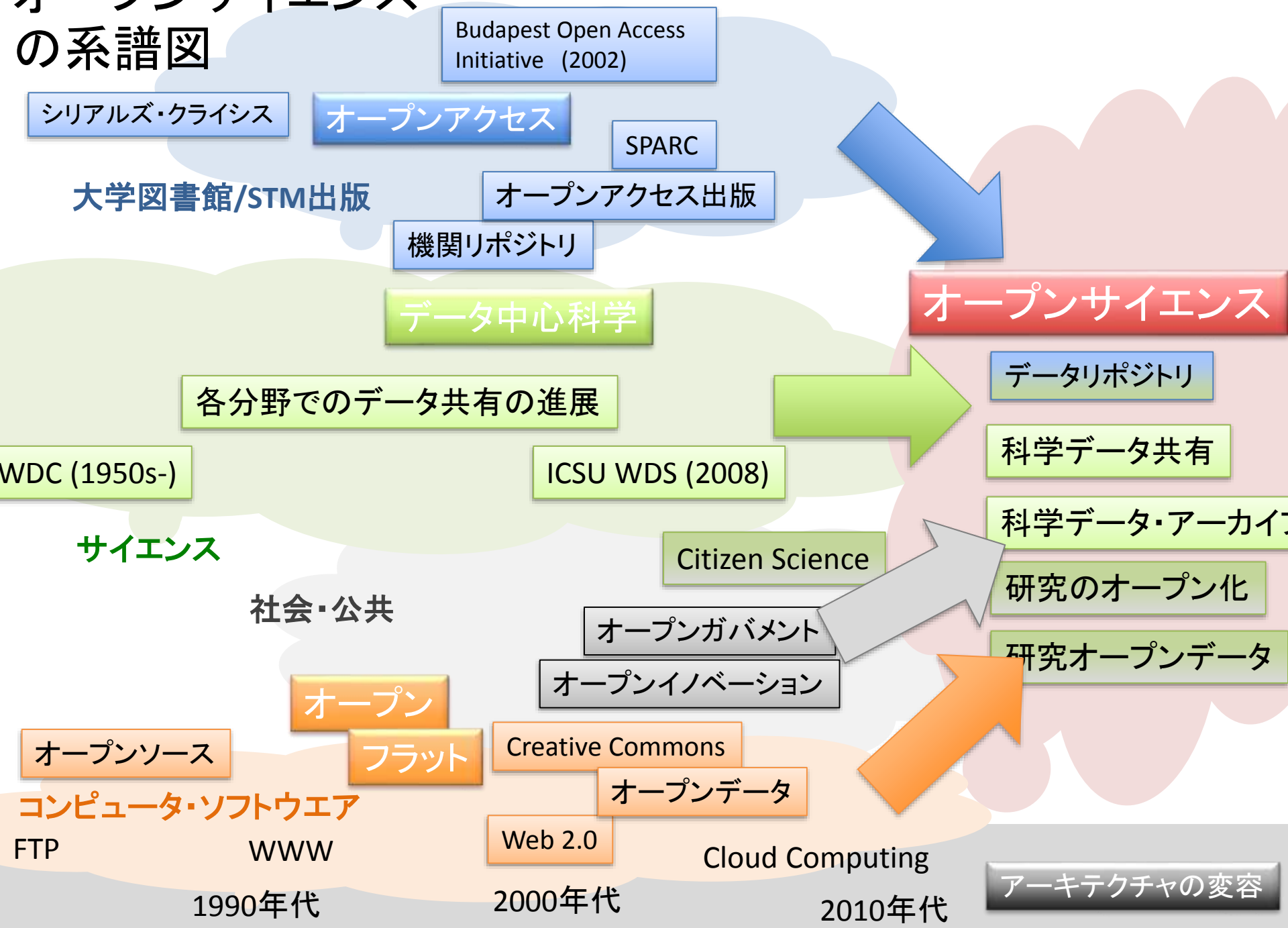
**会場：** サイエンスアゴラ内  
A会場 (日本科学未来館) 7階会議室2

# 研究データ利活用協議会

Research Data Utilization Forum (RDUF)

- 2016年6月発足
- ジャパン・リンク・センターの活動の一環として設立
- 機関会員
  - 科学技術振興機構(JST),
  - 物質・材料研究機構(NIMS),
  - 国立情報学研究所(NII),
  - 国立国会図書館(NDL),
  - 情報通信研究機構(NICT),
  - 千葉大学附属図書館/アカデミック・リンク・センター
- 個人会員

# オープンサイエンスの系譜図



# 研究データ利活用協議会

Research Data Utilization Forum (RDUF)

- 目的

- 研究データに関する多様なセクターを集める
  - 実務者を中心に
- 研究データの共有と公開に関する課題を共有する
  - 分野を超えて共通の課題
  - 技術の共有
- 研究データの共有と公開に対しての、技術的・社会的解決に関する議論を行う
- 海外など関連する組織・活動との情報共有とコラボレーションを図る

# 研究データ利活用協議会

Research Data Utilization Forum (RDUF)

## • 活動計画

### – 研究会(年3回程度)

- キックオフミーティング(7/25)
- 第1回 (10/3)→
- 第2回 (10/26) 第3回 人文科学データ？

### – 公開シンポジウム等

- サイエンスアゴラ内シンポジウム
  - 研究データの利活用の未来
    - » オープンサイエンスの実現手段
    - » 11/4 (金) 13:30-15:00

# 研究データ共有による イノベーションの創出

第8回RDA総会等の国際議論を踏まえて

2016年10月3日(月) 14:00~17:30 (開場:13:30)

GENERATING INNOVATION BY RESEARCH DATA SHARING BASED ON THE INTERNATIONAL DISCUSSIONS

第8回研究データ同盟(RDA)総会は、本年9月15~17日に米国デンバーで開催される研究データに関する国際会議です。会議参加者の発表を中心に、研究データを取り巻く国際情勢にスポットをあて、最新動向の共有を図ります。ディスカッションでは、研究者、図書館員をはじめ様々な立場の人々が、研究データの共有によるイノベーションの創出について共に考える場にしたいと考えています。

- ◆ 講演「RDAの概要とJaLC研究データ利活用協議会について」(仮)  
国立情報学研究所教授、協議会会長 武田 英明
- ◆ 講演「オープンサイエンスを巡る世界の最新動向」  
情報通信研究機構総合ビッグデータ研究センター研究統括、協議会副会長 村山 泰啓
- ◆ 第8回RDA総会参加報告  
国立情報学研究所特任准教授 齋川 圭  
国立情報学研究所助教 込山 悠介  
科学技術振興機構加基基能情報部長 小賀坂 康志  
物質・材料研究機構技術開発・共用部門科学情報プラットフォームエンジニア 田辺 浩介  
国立国会図書館電子情報部電子情報企画課 山口 聡
- ◆ Digital Infrastructures for Research 2016参加報告  
国立情報学研究所准教授 山地 一植
- ◆ 講演「研究データと国の科学技術政策の観点からRDA総会を見る」(仮)  
文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター上席研究官 林 和弘
- ◆ フロアも交えたディスカッション

**会場** 国立国会図書館 東京本館 新館講堂  
東京都千代田区永田町1-10-1 東京外口永田町駅より徒歩10分

**申込方法** 国立国会図書館ホームページ「イベント・展示会情報」の当該イベントページ (<http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/201610rda.html>) より申込みを受付

<お問い合わせ先>  
国立国会図書館 電子情報部 電子情報企画課 連携協力係  
電話: 03-3506-5239 E-mail: jalc@ndl.go.jp

参加無料  
定員200名  
(先着順)

国立国会図書館  
National Diet Library, Japan

第2回 SPARC Japan セミナー 2016 (オープンアクセス・サミット2016)

## 研究データオープン化推進に向けて インセンティブとデータマネジメント

2016年10月26日(水) 13:00-17:15  
国立情報学研究所12階会議室



“Open in Action” October 24 - 30, 2016

- 登壇者(敬称略)**
- 仲里 猛留 (情報・システム研究機構 ライフサイエンス統合データベースセンター)
  - 下田 研一 (長崎大学附属図書館)
  - 南山 泰之 (国立極地研究所)
  - 青木 学聡 (京都大学情報環境機構)
  - 武田 英明 (研究データ利活用協議会 / 国立情報学研究所)

日本におけるオープンサイエンス推進のあり方については、2015年3月に内閣府から報告書が公表された。それによると、国としての基本姿勢・基本方針は、公的資金による研究成果の利活用促進を拡大することとされており、ここで言う研究成果には研究の過程で得られた「デジタル化された研究データ」も含まれている。

研究データ・サイエンスデータのオープン化に当たっては、大学・公的研究機関、データを生み出した研究者の積極的な役割が期待されることであるが、昨今の厳しい研究環境を背景として研究者の内発的動機づけに至っていないうえ、ある程度ワークフロー化した研究データマネジメントシステムが確立されていないのが現状である。こうした現状の指摘は、この半年ほどの間に「戦略的創造研究推進事業におけるデータマネジメント方針(JST)」、「67次 次々 つくば科学技術大臣会合『つくばコミュニケ』(内閣府)」、「オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言(日本学術会議)」などに相次いで見られ、その解決は焦眉の急といった様相を呈している。

研究者及び科学コミュニティに対しては、研究データのオープン化を進めることにより新たな知見や価値が生み出せるというインセンティブに加え、オープン化の成果に見合った処遇を与えるといったインセンティブを高めることも重要であると考えられる。研究データマネジ

メントに関しては、データの長期保存・管理・公開において図書館・機関リポジリ・データセンターが果たす基盤的な役割は大きく、こうした機関の構成員と研究者との協力をワークフローに組み込むことはこうした問題を解決する可能性を秘めている。

以上を背景として、本セミナーでは、自然科学分野で実際に行われている図書館と研究グループ連携の取り組みや機関リポジリの現状などの話題提供を通して、日本における研究データ・サイエンスデータのオープン化を「図書館員・研究者の協同」という観点から今後どのように推進していくことができるかを考えてみたい。

参加費 無料  
参加申込 <http://www.nii.ac.jp/sparc/event/>

申込期限 2016年10月24日(月)

お問い合わせ先  
国立情報学研究所 SPARC担当  
E-mail: co\_sparc\_all@nii.ac.jp



主催: SPARC Japan(国立情報学研究所)  
共催: 研究データ利活用協議会



# Research Data Alliance (RDA)

- RDAはデータ共有と交換の障害を減らすための**インフラストラクチャー**とコミュニティ活動の発展と世界的なデータドリブンイノベーションの加速に焦点を当てた国際的な活動である。
- RDAは、研究者と**イノベーター**が技術・ディシプリン・国境を越えてオープンにデータを共有するというビジョンを達成するために、データのオープンな共有を可能とする**社会的・技術的**架け橋を作る。

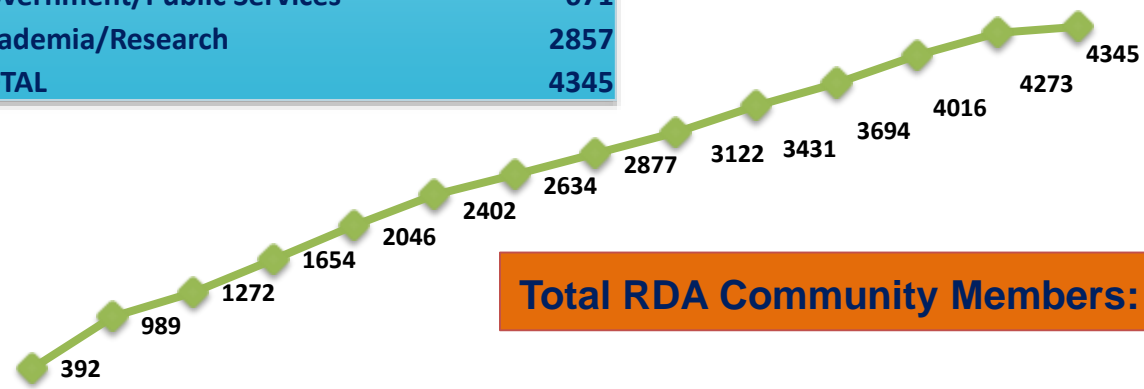
# RDAの活動

- 幾つかのトピックス
  - 再現性
  - データ保存
  - 領域リポジトリのベストプラクティス
  - カリキュラム開発
  - データサイテーション
  - データタイプレジストリ
  - メタデータ
  - ...



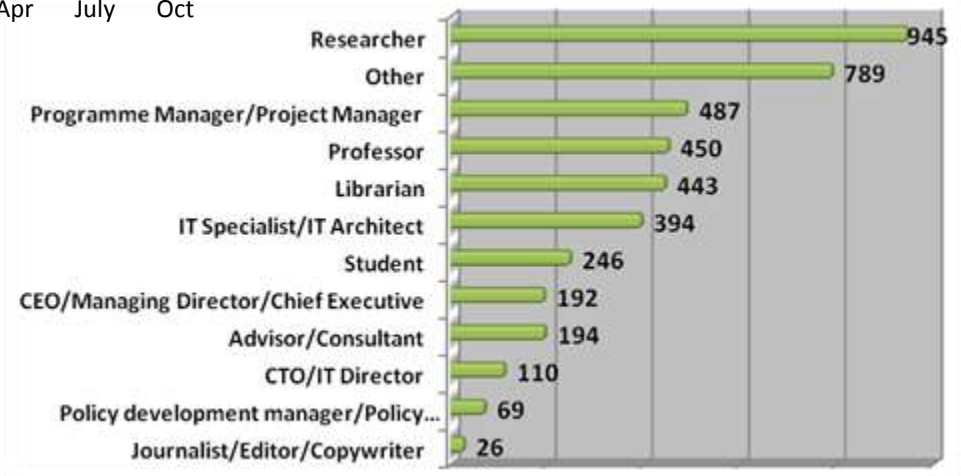
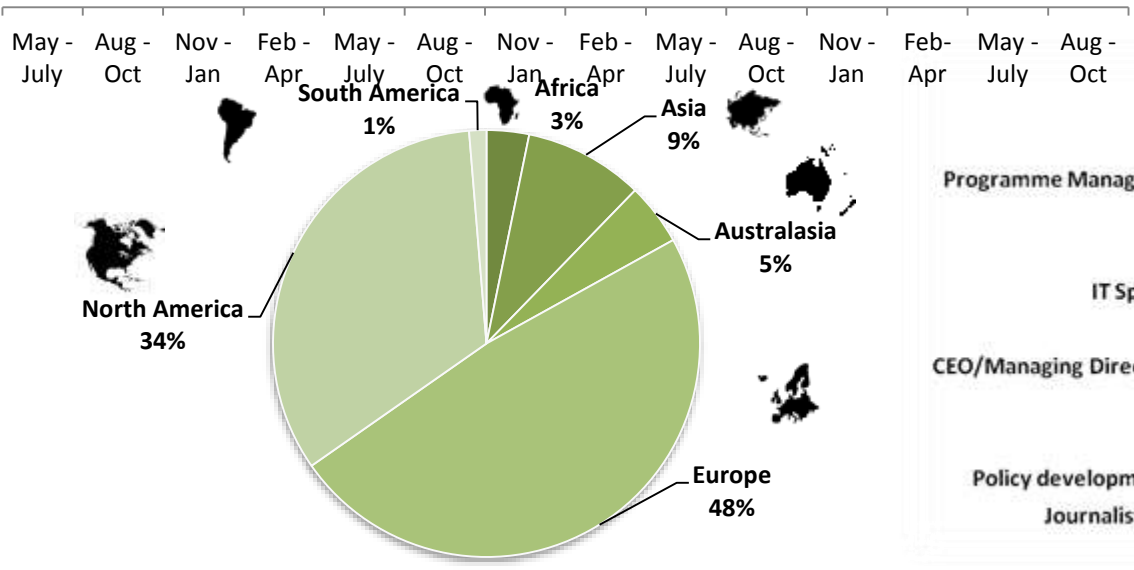
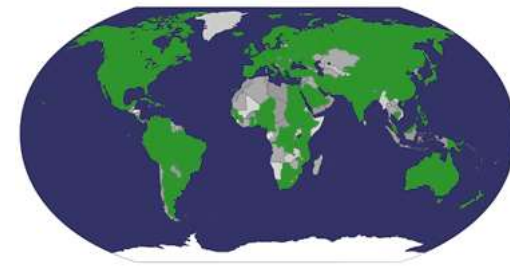
# Who is RDA?

Type	Members (Sept. 2016)
Press & Media	27
Policy/Funding Agency	64
Large Enterprise	99
IT Consultancy/Development	143
Small and Medium Enterprise	249
Other	235
Government/Public Services	671
Academia/Research	2857
<b>TOTAL</b>	<b>4345</b>



**Total RDA Community Members: 4345**

from 111 countries



# Organisational & Affiliate Members



44 RDA Organisational Members



6 RDA Affiliate Members



# まとめ

- オープンサイエンス
  - Internet/Webの発展とともに
  - 技術、習慣、マーケット、ルールのそれぞれが変化
- 横断的な対話が始まっている
  - Research Data Alliance (RDA)
  - 研究データ利活用協議会(RDUF)
- オープンサイエンスの重要なステップとしての研究データ共有